

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200311		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム ユキササの家		
所在地	札幌市東区北16条東3丁目1番50号		
自己評価作成日	平成24年8月26日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200311-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階		
訪問調査日	平成 24	年 9	月 26

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように	
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/> 3. たまにある			<input type="radio"/> 3. たまに
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない			<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が			
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が集うリビングに掲示しており、入居者の方のペースに合わせることを大切にしています。季節を感じられるような行事を取り入れ、また、地域に根ざしたホームとなるように意識し、理念に沿ったグループホームになるよう心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の方と一緒に、回覧板を回したり買い物へ出かけています。地域の方のご挨拶を大切に、お子さまとの交流もあります。町内会行事に参加したり公共の施設も利用させていただき、地域の一員として暮らしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方が来て下さった時や、買い物・町内会行事への参加を通し、認知症のご理解をいただけるように働きかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症ケアに対する考え方や支援の工夫、成功例や失敗例等を、運営推進会議等でお話しさせていただき、地域の方々のご参考にさせていただいています。また、地域の方の視点によるアドバイスをいただき、サービスの改善に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区の窓口には直接伺うように努め、顔の見えるつながりを心がけています。区主催の会議には積極的に参加しグループホームの実情をお伝えしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間は施錠していますが、自由に暮らしていただけるように日中は解錠しています。起きる・食べる排泄・整容・活動など、その方に合ったケアを基に支援し、入居者の方がしたいと思うことを止めず尊重したケアを行い、且つ安全を確保しながら支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待廃止委員会を設置し、全職員で振り返り学ぶ機会を設けています。無意識のうちに行われぬよう日頃から言葉遣いに留意し、自分自身・チームの対応を振り返っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいるので、自主勉強し制度を理解した上で、制度を利用されている方の現状を把握し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の際には、介護度別の資料・同意書を基にお一人お一人へご説明させていただき、同意をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方やご家族からいただいたご意見は、記録に残してケアに取り入れれたり、苦情報告書にあげて改善を図っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話やミーティング等で聞かれる意見を実現できるように一緒に考えています。すぐに実現が難しい事でも、計画を立て実現に向けて検討しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事や研修がある時は勤務時間や手当を考慮し、負担なく積極的に参加できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で課題となっている事を勉強会に取り上げたり外部からの案内による研修や、個人の経験に応じた研修を受講できるようにしています。外部で受講した研修はホーム内に持ち帰って発表し、他職員へ伝えていくことでチームとしてのスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区グループホーム管理者会議やGH合同事業体に、介護職員向けの研修を企画して意見交換や交流の機会をつくり、日々の支援や業務に役立てるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔や困った顔など表情の変化をみて、その時のご本人の言葉や行動・仕草、周りの状況などから、どのような時に不安・嬉しさを感じられるのかをよみとり、安心につながるようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることやご要望をお聴きし、答えは急がず様々な視点で一緒に考え、安心して入居当日を迎えられるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わる為に影響を受ける事も予測しながら、これまでの生活を続けられるように、継続する支援、新たな支援、必要な用具等について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と一緒にご飯作りや掃除を行い、入居者の方が休みたい時は一緒にお茶を飲みながら共に過ごし、皆で暮らしていると思っただけのように寄り添った生活を送っています。できる事を行えるように、困難な事はさり気なく支え、可能性の視点を持ち続けることを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が来訪しやすい場所となるように心がけ、ホームの行事にもご参加いただいています。ご家族と入居者の方で外出される際は、ご家族の不安を解消できるようにアドバイス等させていただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって馴染みのある物、場所、風景の会話をしながら支援しています。実際に過ごしていた所へ行く事が難しくても、音楽喫茶店への外出や畑仕事の場面をつくったり、好きな飲み物や食べ物も取り入れています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	物を持ちながら歩ける方は、他の方の分も配膳して下さったり、洗い終わった食器を運んで一緒に拭くなどし、助け合いや協力する機会をつくっています。必要に応じて職員が橋渡し役になる事もありますが、居室にて入居者の方だけで過ごされる時間も大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された際は、ホームで生活されていた時のお写真をお送りさせていただき、退去後の生活に不便のないよう関係機関と連携を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床・就寝時間、食事のペースなどを把握し、生活リズムをつくりながらご本人の時間を大切にしています。言葉や行動から、ご本人の思いやご希望をよみとり、ご本人の意思に沿って支援できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴・生活環境・家族環境・職業と、これまでに受けてきた医療と介護サービスを把握し、馴染みの暮らし方ができるように支援しています。これまでと変わらない事と変化のある事について、現状から理解し、毎日の暮らしを支えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日・その時間の、お一人ごとの体調と心の状態に適切な対応をできるように、職員間で情報交換しています。過去にさかのぼって状況分析にあたりケアをしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉・表情・行動と、ご本人との生活の中で気付いた事を職員間で出し合い、これまでの介護計画実施について検討しています。そして、ご家族のご意見やご要望もあわせ次の介護計画につなげています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子だけでなく、その時の状況や対応方法も記録に残す事で、職員間の情報共有やヒントとなり、改善や支援実施につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画にのっていない事でも、ご本人のご要望や訴えがある時は、職員間で対応法を相談し話し、その都度対応しています。ご家族の方で対応が難しい時は、こちらで対応させていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で得た情報を活かしながら、楽しみ・笑顔のみられる支援を心がけています。外出の際には、車椅子が通れる道があるか、車椅子用トイレがあるか調べ、安全に安心して活動できるようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関を主治医とされており、往診/受診の際は状態報告をし、その結果をご家族へお伝えさせていただいています。主治医との連携のもと、他科や専門医の医療を受けられる体制づくりをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員の看護師に、日常の様子や心身の状態、少しでもいつもと違う事を伝え、対応を話し合っています。必要に応じて、ホーム職員の看護師から主治医へ報告し指示や助言をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人やご家族の治療に関する希望を病院へお伝えしています。入院中は、担当医・ご家族・ホーム看護師・管理者でカンファレンスを行い、早期退院に向け取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設等への転居の意向や最期についての考え方をご家族に確認しています。まだ、終末期を迎えた方がいない為、今後具体的な取り組みが必要です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救命救急講習を受け、ホーム内のミーティング時に振り返り復習しています。緊急対応時のマニュアルを作成し、落ち着いて判断・行動できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間の想定で避難訓練を行っています。火災時のマニュアルと避難場所を常に貼りだしており、職員全員が把握できるようにしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけ・言葉づかい・対応を心がけています。一人ひとりの性格や好みを把握し、画一的な対応にならないように工夫しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か決める事がある場合は、入居者の方と一緒に考え決めています。意思を表すのが困難な方には、選びやすく答えやすい訊き方の工夫、表情からのよみとり、選択肢をつくるなどして自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような事が好きか、どのような事に興味をもたれているか把握し、その方らしくその方のペースで過ごしていただけるように支援しています。お天気やご気分によってその日やりたい事をできるように、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や服のデザイン、好きな髪型やお化粧を把握しその方らしいおしゃれができるように支援しています。輪傘、ネックレス、ブローチなど、いつもつけている物をつけていない時は、会話の流れからおしゃれできるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒にご飯をつくり・食事・後片付けをしています。次に何をしたらいいかわかりやすいように支援し、好きな料理や味付けを献立に取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食に白飯・粥・パンを用意し、副食は大きさや硬さを工夫しています。食事の中に嫌いな食べ物がある方には、代替食品を選んでいただいています。お好みの飲み物や一度に摂取できる量を把握し、周りの環境やタイミングなどに配慮しながら、随時補えるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	タイミングや雰囲気を大切にしながら口腔ケアを行っています。歯磨きや義歯洗浄は、ご本人の力を活かして行っていただき、職員が仕上げや口腔状態の確認をさせていただいて口腔内のトラブルを防いでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の間隔や体調を把握し、お手洗いへ行けるように支援しています。夜間、紙パンツを使用されている方も、日中は布パンツで過ごしていただき快適な生活へ向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分の摂取状況の観察、腹部マッサージ、運動などで排便できるように対応しています。下剤を使用されていても過剰にならないように適宜調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入りたいと思っていただけるように、声かけの内容やタイミングを工夫しています。入浴したいと思った時にできるだけ叶えられるよう、午前・午後とも入浴できるようにしています。入浴時も笑いながら楽しめるように心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせてお昼寝の時間やタイミングを把握し、就寝・起床時間も個人の生活習慣や体調に合わせています。就寝時間が遅い方と談話し、眠たくなるまでお付き合いさせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴を把握し、内服薬・軟膏・点眼液など使用しているお薬の目的や副作用を理解しています。処方の変更になった場合や頓服薬服用時も確認と経過観察を行い、状態変化に留意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お料理が好きな方は、その中でも得意な事ができるように、テレビや歌が好きな方は、その中でも好きなものを楽しめるように支援しています。その他にも、好きな事得意な事を通して、役割と楽しみから生活していく希望をみつけられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ行きたいと話して下さったり、外へ行こうとされている時は外出できるように支援しています。季節ごとの外出の他、大型ショッピングセンターや喫茶店など、個人希望の外出もしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金を持たれている方もいらっしゃいますが、所持金を持たれていない方には、必要時にお小遣いのご用意をさせていただき、お買い物を楽しんでいただいています。また、紛失や所持金不足で不安にならぬように、収支残金確認をさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方と一緒にハガキを買いに行き、ポストへ出しに行くのも、ご本人と行っています。電話をかける時は電話を操作するところから支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースで心が和み、居心地のよい空間となるように、お花や写真を飾り、室温・湿度にも留意しています。今日は何月何日かわかりやすいように、カレンダーの工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの横にテーブルを置き、お一人や少人数で過ごせる場所をつくっています。入居者の方同士で居室の行き来をされることもあり、居心地の良い「私の場所」を保てるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物や家具等の置き場所は、ご本人やご家族に相談し、身体に合わせて動きやすく安心できる環境をつくっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	引き出しや冷蔵庫の中には何が入っているかわかりやすいように、文字や写真を貼っています。「トイレ」「風呂」「洗濯室」テレビの「でんげん」等も表示し「危ない、できない」ではなく、できることを行動に移していただけるように、環境づくりと見守り支援しています。		